

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		モンキーボット輪				公表日	令和7年3月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		子ども達がのびのびと活動できるようスペースを確保している。また、状況に合わせて部屋の使い分けをしている。	子どもの課題に応じて、できるだけ配慮しているが、整理しきれない場面もあるため、選択肢を増やしていきたい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		配置基準は満たしている。	子どもの人数や特性に応じて調整を行っているが、十分な配置が難しい場合もあります。今後も、状況に応じた適切な職員配置をしていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	2	スケジュールを視覚化し、 unnecessaryなものは目につかないよう配置するようにしている。また、どこで何をするか分かりやすいよう構造化に努めている。	構造上しかたない箇所だが一つだけ段がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日清掃を行い、清潔に保てるよう努めている。また、感染症予防のため、おもちゃの消毒を行っている。	引き続き、清潔に保てるよう努める。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		必要に応じて、部屋を分けて使用している。	2カ所に分けているが、それ以上分ける必要ができた時の対策を検討していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		毎日打ち合わせと振り返りを、出勤している全職員で行っている。	意見を出しやすい環境を整えていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		今回いただいた評価に対して、いくつか行く改善をさせていただく予定をしている。	日頃把握できていないニーズがあったため、日頃相談しやすい環境を整えていけるよう努める。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎日の打ち合わせや振り返り、または書類作成の時に意見を聞けるよう努めている。	意見を出しやすい環境を整えていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6			第三者による外部評価は行っていないが、保護者評価や自己評価を基に業務改善につなげている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		外部研修に出られない場合は、施設内で見られるよう動画研修を用意している。	可能な限り、参加している。	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		作成し公表した。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		モニタリング会議では、様子を振り返りながら職員間で話し合いながらアセスメントを行っている。また、面談時や療育利用児にニーズについてはお伺いして、児童発達支援計画を作成している。	日頃、相談しやすい環境を整えていけるよう努める。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		会議や日々の振り返りで、職員同士の共通理解を図れるよう努めている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		児童発達支援計画を作成した際は職員間で共有し、毎療育ごとに児童発達支援計画を確認できるようにしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		新版K式発達検査の結果や発達課題リスト、また日々の振り返りや記録を使用し、状況を確認している。	より適切に分析していくために、研修等で専門的に理解を深めていく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		児童発達支援計画にそれぞれの項目を設けて記載している。		

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		リードがたたき台を作って、振り返りを行っている。	意見を出しやすい環境を整えていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		繰り返し行うことで、理解して取り組めるようになるため、1か月ごとに活動プログラムを変更するようにしている。また、年齢や発達課題によっては、長い期間での積み重ねも必要だと考えているため、子どもに合わせて活動プログラムを設定している。	繰り返し行うことも必要だが、課題に対してのアプローチができていないか、引き続き毎回精査していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		適宜組み合わせて行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		必ず打ち合わせをして確認し、連携している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		必ず振り返りを行い、共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		記録を徹底し、検証改善つなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期的にモニタリングを行い、適切に見直している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		セルフプランを利用されている方が多いため、会議に参加する機会が少ないが、機会があればよく理解したものが参画する。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		必要に応じて、連携している。	あまり機会がないため、不足している点については整えていけるよう努める。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			移行支援の際に直接他施設との情報共有はしていないが、保護者様を通じて確認させていただいている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		直接やり取りはしていないが、移行支援シートを作成し、保護者様を通じて情報共有している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	6			今まであまり機会を設けていないが、スーパーバイズや助言は受けたいと思っているため、連携していきたい。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	1		安全面での配慮が難しく、実施に向けた検討が進んでいない。今後できる形で地域活動を進める方法を模索していきたいと考えている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		利用日の最後にはご様子をお伝えして、日々のこととお伺いしており、できるだけ共通理解が持てるよう働きかけている。	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		日々のお話の中で情報提供は行っている。	令和7年度から、ペアレントトレーニングや研修の機会を設けていく。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		丁寧な説明を心がけている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		きちんとご様子をお伺いしたうえで、ご意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		児童発達支援計画を示しながら説明し、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		日々お会いしてお話する機会が多いため、適切にお伝えしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1		今まで実施できていなかったが、令和7年度より保護者様からのアンケートを基に実施予定。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			全ての人へ周知できていなかったため、会報を発行して情報発信していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報取り扱いの同意書を保護者様と交わし、それを基に留意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		必要があれば、視覚で見え分かりやすくまとめる等行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2		今まで行えていないため、機会があれば実施していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			マニュアル策定をして訓練しているが、全ての方へ周知できていなかったため、会報などで発信できるようにしていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		初回面談時に確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			初回面談時に確認しているが、該当の利用児が現在はいない。また、当施設では食べ物の提供は行っていない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			安全については、引き続き細心の注意を払いながら、万が一の事態に備えて、職員間でも確認をしていきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		振り返りの中でヒヤリハットがあれば共有し方策について検討している。その後、他職員に対しても書類での報告・共有を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		毎年1回研修機会を確保し、確認して適切な対応をしている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		毎年1回身体拘束について研修機会を確保し、確認して適切な対応をしている。	児童発達支援計画に記載するほど、日常的に身体拘束が必要な利用児童がいないため、現在は記載していない。